

株式会社ミュージックバード

第85回番組審議会 議事録

1. 開催日時 2022年7月27日(水) 14時00分～15時30分
2. 開催場所 ※ZOOMによるリモート開催
3. 出席者
＜番組審議会委員＞
福本 ゆみ 委員
中西 健夫 委員
近藤 良 委員
麻倉 怜士 委員
高田 英男 委員

＜ミュージックバード＞
代表取締役社長 雄谷 英一
常務取締役 仁平 成彦
取締役技師長 土屋 充央
コンテンツ事業部 岩崎 育郎
コンテンツ事業部 関根 直子
4. 議事内容
(1)主な放送の活動
(2)番組試聴
(3)その他
5. 配布資料
(1)第85回番組審議会資料
(2)第84回番組審議会議事録
(3)2022年7月改編タイムテーブル

<MB>会議の冒頭で事務局・雄谷が新任の委員、高田英男氏を紹介し、高田英男氏に自己紹介を依頼した。

(高田英男氏プロフィール)

1951年、福島県生まれ。1969年、日本ビクター入社(ビクタースタジオ配属)。

録音エンジニア業務に従事。2001年、ビクタースタジオ長。2012年、サウンドプロデューサーに就任。2016年ミキサーズラボ顧問

アイドルポップス、ジャズ、アコースティック録音を中心にエンジニア業務に従事し、日本プロ音楽録音賞、各オーディオ誌録音賞など多数受賞。(株)JVCケンウッドとの連携によりデジタル高音質技術・K2技術&ウッドコーンスピーカー音質創りをサポート。現在ハイレゾリミューション音楽制作&サウンドプロデュースを担当。

<録音作品>JVC国内制作:ネイティブ・サン、MALTA、国府弘子、サリナジョーンズ、PONTA BOX他多数。芸能山城組:輪廻交響楽~AKIRA。鬼太鼓座:富嶽百景 他。サラウンド作品:DVD-A Symphonic Suite AKIRA 他多数。最近の作品:ハクエイ・キム(UM) 苦米地 義久 (TOMA Ballads3) クリストファー・ハーディ&彩 愛玲(Light of the Ancients) ステレオサウンド・ハイレゾリファレンスチェックディスク

(1)主な放送活動

・THE JAZZ(122ch)「TOKYO FM Studio IRIS ライブ」再開

ここ2年半にわたるコロナ禍により、新規録音を休止していた TOKYO FM Studio IRIS での生演奏収録を再開致しました。

この番組はライブアコースティック演奏を 96kHz/24bit PCM<ハイレゾ>で録音し、オリジナルコンテンツとして放送する番組。

TOKYO FM のレコーディング・スタジオ「IRIS(イリス)」は 2017年に英国 Solid State Logic 社の System T を導入。96kHz/24bit PCM のハイレゾ録音に対応しました。番組では、ジャズ系アーティストを中心にレコーディングを実施しています。エンジニアは、「日本プロ音楽録音賞優秀賞」の受賞経験を持つ川島修氏(TOKYO FM)。

8月/スティーロパン、ギター、ドラムで愉しむボサノヴァ

コロナ禍の影響で新たなレコーディング休止していましたが、この夏より再開。

8月は山田園恵・長澤紀仁・吉田和雄によるユニット、PANDRUM が新登場!

ドラム缶で作られたユニーク楽器のスティーロパンの涼やかなサウンドは

PANDRUM 得意のボサノヴァ・ナンバーに相性抜群です!

[8/7日放送 再放送=14日・21日・28日]

<MB>ハイレゾ収録が可能なスタジオとして整備したが、TFMとしてはなかなか試す機会がなく、当社の高音質放送で生演奏を収録する企画を立ち上げた。コロナ禍によって休止していた生演奏の新録音を開始した旨を説明した。

・THE CLASSIC(121ch)【CLASSIC LIVE SELECTION】WORLD LIVE SELECTION

4月17日/ウィーンの新しい風~フィルハーモニック・ファイヴ

ウィーン・フィルの第2ヴァイオリン首席奏者のティボール・コヴァーチがウィーンフィルやオーストリアで活躍する演奏家達に声をかけ結成した五重奏団フィルハーモニック・ファイヴカルテットの演奏を紹介。

5月22日/才気あふれるエストラーダとウィーン響の新時代

1977年生まれの若き指揮者アンドレス・オロスコ=エストラーダに注目。南米コロンビア生まれの彼は19歳でウィーン国立大学へ留学、ウィーン・トーンクンストラ管弦楽団、フランクフルト放送交響楽団、ヒューストン交響楽団を経て2020年ウィーン交響楽団の首席指揮者に就任。ウィーンで学び、愛され、ふたたびこの都へ戻ってきたエストラーダとウィーン響の蜜月の始まりを象徴するプログラムを紹介。

6月19日/ヤクブ・フルシャ指揮ウィーン・フィル「わが祖国」

チェコの若き指揮者ヤクブ・フルシャとウィーン・フィルハーモニー管弦楽団によるスメタナ連作交響詩「わが祖

国)。フルシャは1981年生まれ。ドイツの名門バンベルク交響楽団の首席奏者としても活躍し、いまや世界中から引っ張りだこの人気ぶりです。フルシャとウィーン・フィルの初共演を紹介。

7月17日／最高峰の弦楽四重奏団シューマン・カルテット

ドイツが誇る世界最高峰の弦楽四重奏団、シューマン・カルテットのコンツェルトハウス大ホールでの演奏を紹介。

8月21日／注目の女流指揮者マリー・ジャコーとウィーン響の「フランク交響曲」、マキシミアン・ホルヌング(Vc)

ジャコーはパリ生まれドイツ、オーストリアで活躍する若手女流指揮者、2024年からはデンマーク王立歌劇場の首席指揮者に就任を予定。

<MB> 当社の人気チャンネル「THE CLASSIC」の看板番組。相変わらずオーストリア放送協会のライブ音源に対するニーズが高いことを説明した。

(1) 番組試聴

① 121ch THE CLASSIC

【番組】『東条碩夫の音楽スケッチ』／失恋の歌、裏切られた男たちの歌
(2022年6月16日<木>14:00-18:00放送)

【出演】東条碩夫

【番組概要】音楽評論家、プロデューサーの東条碩夫氏が1年ぶりの再登場！

この日の放送では、「去る者だけが美しい」のではなく、「残された者たちの歌」を美しく描くのがクラシック音楽の強み。シューベルトの「冬の旅」、マーラーの「さすらう若人の歌」などの失恋の歌がいかに素晴らしいか。一方、妻の不倫を知って怒りと復讐に燃える男の歌には、もっと凄味が加わります。

【出演者プロフィール】

東条碩夫(とうじょう・ひろお)

音楽評論家。エフエム東京で「TDK オリジナル・コンサート」「新日本フィル・コンサート」など演奏会中継番組をはじめ、クラシック音楽番組の制作全般に携わる。1975年、文化庁芸術祭ラジオ部門大賞受賞番組(武満徹「カトレーン」)制作。エフエム東京制作一課長、FM静岡制作部長、ミュージックバード編成部長等を歴任後、1992年よりフリーとして活動。著書・共著に「朝比奈隆ベートーヴェンの交響曲を語る」(音楽之友社)、「伝説のクラシック・ライヴ」(TOKYO FM 出版)、「ヘルベルト・フォン・カラヤン」(同)他。「モーストリー・クラシック」に「東条碩夫の音楽巡礼記」連載中。ブログ「東条碩夫のコンサート日記」を公開中。

<MB> ご高齢もあり、以前に東条氏が担当していた番組は一度終了させたが週1回の規模で同氏出演の番組として復活させた。

<委員> 経験からくる東条さんの話は極めて興味深い。

<委員> クラシックに詳しくはないが、かつての時代の感情の起伏が分かって面白かった。語り口もわかりやすい。

<委員> 映画「ゴッドファーザー」のパート3で使われていた曲が今回の特集にあり、映画音楽特集ではないが面白い切り口になる。

<委員> 色々なクラシックの解説番組があるが、他にはない切り口が斬新。詞の解説があった方が深く理解するにはよかったと思う。

<委員> 東条さんの語り口に安心感を覚えた。クラシック、オペラは詳しくないが、感情表現、構成の練り方がよくできていることが分かる。世界各地のホールで聴いている方なので、関連してあの時あのホールでの演奏や音がどうだったかなども伝えるとよいと感じた。

<委員> オペラの歌詞を翻訳したものを読むのは著作権上問題あるか？⇒東条さんに確認する。

② 124ch THE AUDIO

【番組】『ザ・サウンド・イン・マイ・ライフ～行方洋一の全仕事』

(2022年7月3日<日>14:00-15:00放送)

【出演】行方洋一

【番組概要】1960年代からレコーディング・エンジニアとして活躍し「見上げてごらん夜の星を」「木綿のハンカチーフ」「サザエさんのテーマ」など多くの名録音を遺し2022年5月に亡くなった行方洋一氏が自らのキャリアを振りかえった60回シリーズ。本人しか語るることのできない録音秘話や世に出なかった幻の音源が登場する、もうひとつの日本ポップス史、レコーディング史です。

※「ザ・サウンド・イン・マイ・ライフ」(2015年10月～2017年6月)の再放送

【出演者プロフィール】

行方洋一(なめかた・よういち)

1943年東京生まれ。東芝EMI(旧東芝音楽工業)録音部に入社後、坂本九、弘田三枝子、欧陽菲菲、渚ゆう子、奥村チヨ、小川知子、浜圭介等の作品を担当。その後制作部に移りプロデューサー&ミキサーとして読売交響楽団、徳永二男等のクラシックからアンリ菅野、前田憲男、ジョニー・ハートマン等のジャズまで幅広く手掛ける。フリー転身後も太田裕美、ゲームソフト「ドラゴンクエスト」等の音楽録音の傍ら、オーディオ雑誌やイベント等でのオーディオ評論活動も行う。また東芝EMI在籍時にE×MFシリーズを立ち上げオフ・コース、チューリップ、アリス、甲斐バンド等のアルバム全64タイトルをリマスタリング・リリースするなど、音の世界で数々の体験をしたベースに、ハードからソフトまでの幅広い見識や、職人技的なテクニックを使うキャリアの長いエンジニアならではの魅力を兼ね備えた。

<MB>残念ながら今年亡くなったレジェンドエンジニアの行方さんの過去のアーカイブをまとめた企画であることを説明。

<委員>アレンジを如何に音でデザインするかがエンジニアの仕事。音のデフォルメなどで圧倒的な作品を遺した先駆者です。ただ正直なところ、秘話は面白いが番組構成にはアレンジのバランスの妙など現場のエンジニアならではの話を伝えるなど工夫が欲しかった。一人喋りでなく引き出し役が必要ではなかったか。

<委員>シティポップスが隆盛の中、若い音楽世代は音の研究をし始めている。全体の演奏から特定の楽器だけを取り出して聴かせることなども面白い。

<委員>ラジオCM制作でもいつも同じベテランのエンジニアの方と仕事をしている。世代を超えて技術的なことが伝承されるような番組があっても面白いと思う。1曲に集中して分析できると興味深い。

<委員>キャストは素晴らしいが、行方さんの本質的な部分、例えば今回の太田裕美の曲なら1曲でも音作りのディテールが分かるとよかった。本人にしてみればあえて語るまでもないことかもしれないが聞き手がいれば本人が当たり前でもリスナーには面白いという話が引き出せたのではないか。プロデューサー視点エンジニア視点があればよかったと思う。

<委員>演奏家の立場からしても、音を作ることの面白さ、難しさ、工夫がある。

<MB>色々と反省する点があるので、今後の番組に活かしていきたい。

(3)その他

・当社の「MQA デブラー放送」展開について

当社では高音質施策として、英国MQA社のエンコーダーを導入。以下のスケジュールで各主要チャンネルに導入し、昨年12月に全8チャンネル体制としました。これに伴い、123chを【Premium】から外し、PremiumチャンネルがMQAデブラー放送としました。

<導入スケジュール>

2021年6月1日…… 124ch

2021年10月1日…… 121,122ch

2021年12月1日…… 117,126

2021年12月16日… 103,107,118ch

「MQA デブラー放送」展開チャンネル(全8チャンネル)

- ・103ch:Cool Lounge～THE TERASHIMA JAZZ【Premium】
- ・107ch:Best Voices【Premium】
- ・117ch:KLASSE【Premium】
- ・118ch:SYMPHONIC【Premium】
- ・121ch:THE CLASSIC【Premium】
- ・122ch:THE JAZZ【Premium】
- ・124ch:THE AUDIO【Premium】
- ・126ch:SUPERLEGEND【Premium】

<MB>受信側はデコーダー無しのそのままのチューナーで音のにじみのない音で8CHを提供していることのほか
MQA デブラー放送の効果、契約者の反響、放送のフォーマット限界までの最高音質を説明。

<委員>オリジナルハイレゾマスターの音が伝わるというアピールが良いと思う。

以上